第344号
平成28年
4月25日

すまいるたうん

発行元
南千住専売店
TEL3803-1781
発行責任者
鬼塚　佳代子
TEL090-2657-0300

昭和の香り　ベーゴマ復活の指南役　寺島喜代考さん

「ベーゴマを復活を」

浦安ベーゴマクラブ代表の寺島喜代考さんは南千住出身。十年以上前から浦安市郷土博物館を拠点に浦安市小学校課外授業等でベーゴマ指導をしています。今では浦安の老若男女のベーゴマ愛好者から師匠と呼ばれています。その活躍はNHKなどテレビでも取り上げられています。南千住に居を戻した今でも休日には浦安に出掛けてベーゴマの指導に通っています。

「二人から十人まで勝負できます」

漬物樽などに床（とこ）を作り、その上でコマを回して戦います。公式には直径四十五cmですが、タイマン（一体一）だと直径三十cm、戦う人数により九十cmまで床の大きさは変わって行きます。

「ベーゴマをやっていると怒られました」

寺島さんは小学生の時に近所で働く大人たちと共にベーゴマをしていましたベーゴマ遊びは、最後まで台の上で回転し続けたベーゴマを回した人が、そのときに競い合ったベーゴマをもらえるというルールです。負けたら、自分のベーゴマは相手に没収されてしまう。勝つか負けるか、賭事のような側面を持つ真剣勝負に大人も子どもも夢中になっていました。

「師匠について廻って」

直径三cm前後の鉄製のベーゴマをヤスリをかけたり改造の数をこなして強い自分のコマを作ります。勝つために強い人を師匠と仰ぎ、弟子となり付いて廻って勝負にする。師匠が中学生になると自分の持ちゴマを弟子に渡す。縦社会と横のつながりのある世界があった昭和の時代でした。

「二歳から八十歳の方まで楽しんでいます」

寺島さんからひもの巻き方を指導を受けて二回目でコマは回せるようになります。男の子の遊びと思われていますが、女の子も夢中になってコマで戦っています。

「チッチのチ！」は戦いの開始の合図。カキーン。飛び散る火花に注ぐ眼差しは忘れていた懐かしさが感じ取れます。

年齢性別関係なく勝負して遊べるベーゴマは世代間交流だけでなく、ひもを巻くなど手先を使うことで脳の活性化にもつながります。

寺島さんから拝見したベーゴマの数々は美しく、思わず手に取り鉄の感触に心地よさを感じました。

ベーゴマの世界に魅せられて半世紀。寺島さんは、昭和のたたずまいの残る南千住でベーゴマの復活を考えておられます。寺島さんと共にベーゴマの世界に行ってみませんか。

なみせんベーゴマクラブ
代表　寺島喜代考
携帯090ー8035ー5080
http://blogs.yahoo.co.jp/kiyotera